



倉瀬町は群馬県高崎市の西部に位置し、東は榛名山系の李が岳、北西から西にかけては、浅間隠山、奥曲山、角落山などが連なり、烏川が中央部を流れ、両岸に耕地と集落が散在する山間地域です。烏川の源流地域は、自然が豊かでヒリゴケやウサギゴモリの生息洞穴をはじめ、地質学や動植物学の面で最も貴重な地域となっています。

長井石器時代住居跡をはじめ水沼遺跡、三ノ倉落合遺跡は、縄文・弥生時代の貴重な遺跡です。中世には、榛名信仰と関係のある寺院や神社が参詣道で結ばれていました。熊谷次郎直実の愛馬「権田栗毛」伝説の地でもあります。戦国時代は、上杉、武田、北条の勢力争いで支配地が変わり、要害地となり砦や城跡が多くあります。

近世に入り、中山道の脇環境として、信州の物資輸送の重要なルートでした。道しるべが当時をしるせています。また、民俗文化財も豊富です。路傍の石仏は多くの人々に親しまれ、なかでも道祖神の多い地域として有名です。

東京市史編纂に尽力した塚越芳太郎や心学者塚越桃翁など郷土に光をかけた人々もいます。幕末開明の人物小栗上野介順終焉の地や東善寺には墓や関係資料があります。



- お車では、関越自動車道 高崎インターから
倉渚支所(道の駅)まで約30km・60分
- 上信越自動車道 松井田妙義インターから約20km・30分
- 電車・バスでは、高崎駅西口から群馬バス「権田行」乗車、
倉渚支所(道の駅)まで約60分
- 北陸新幹線 安中榛名駅からタクシーなら約13km・20分

【高崎市倉渕支所】〒370-3492 群馬県高崎市倉渕町三ノ倉303
TEL.027-378-3111 FAX.027-378-4024
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121300049/>
Eメール: kurabuchi-chiiki@city.takasaki.lg.jp



番号	区分	種 別	名 称	指定年月日	位置
1	国登録	有形文化財	三沢川砂防堰堤	平成18年8月3日	B-9
2	国登録	有形文化財	鳥川上流砂防堰堤	平成18年8月3日	詳細②
3	県指定	史跡	小栗上野介忠順の墓	昭和28年8月25日	詳細①
4	県指定	史跡	倉瀬村長井石器時代住居跡	昭和28年8月25日	B-9
5	県指定	天然記念物	笹峠山のヒカリゴケ及びウサギユモリ生息洞穴	昭和59年7月3日	
6	市指定	重要文化財	川浦山御用木御伐出絵図	平成2年4月1日	
7	市指定	史跡	榛名山座主の森	昭和57年4月1日	F-12
8	市指定	史跡	石上のしん寺跡	昭和57年4月1日	
9	市指定	史跡	伝説・権田栗木終焉の地	昭和57年4月1日	F-12
10	市指定	史跡	箕輪城主夫人藤鶴姫の墓	昭和57年4月1日	E-11
11	市指定	史跡	僧戒定の供養塔	昭和57年4月1日	G-13
12	市指定	史跡	小栗上野介忠順終焉の地	昭和57年4月1日	E-11
13	市指定	史跡	地藏峠道・元禄の道しるべ	昭和57年4月1日	
14	市指定	史跡	水沼弥生時代住居跡	昭和57年4月1日	E-10
15	市指定	史跡	心学者塚越桃翁の墓	昭和57年4月1日	
16	市指定	史跡	大明神山の巖跡	昭和57年4月1日	詳細①
17	市指定	史跡	天狗山の古城跡	昭和57年4月1日	
18	市指定	史跡	鎗掛城跡	昭和57年4月1日	
19	市指定	史跡	権田城跡	昭和57年4月1日	
20	市指定	史跡	刀工上州権田住政重屋敷跡	昭和57年4月1日	
21	市指定	史跡	観音山小栗邸跡	昭和57年4月1日	詳細①
22	市指定	史跡	幕府御用材搬出御会所跡	昭和57年4月1日	詳細②
23	市指定	史跡	高芝学校跡	昭和57年4月1日	詳細②
24	市指定	史跡	(伝)権田栗木お母衣明神	平成17年12月22日	B-9
25	市指定	史跡	(伝)権田栗木岩下岩窟観音	平成17年12月22日	詳細①
26	市指定	天然記念物	椿名神社の大イチョウ・大ケヤキ	昭和57年4月1日	詳細①
27	市指定	天然記念物	浅間神社の大カエデ	昭和57年4月1日	詳細①
28	市指定	天然記念物	大明神山のブナ林	平成17年7月27日	詳細①
29	市指定	天然記念物	戸春名神社の大杉	平成17年7月27日	D-11
30	市指定	天然記念物	旧岩水小学校校庭のユリノキ	平成17年12月22日	
31	市指定	重要有形民俗文化財	落合の道祖神	昭和57年4月1日	G-12
32	市指定	重要有形民俗文化財	熊久保の道祖神	昭和57年4月1日	B-9
33	市指定	重要有形民俗文化財	長井の道祖神	昭和57年4月1日	B-9
34	市指定	重要有形民俗文化財	下諏訪神社の道祖神	平成3年1月18日	D-9
35	市指定	重要有形民俗文化財	猪木の道祖神	平成3年1月18日	C-8
36	市指定	重要有形民俗文化財	浅間神社の百庚申	平成15年8月1日	詳細①
37	市指定	重要無形民俗文化財	水沼古布神社の獅子舞	平成9年6月11日	D-10
38	市指定	重要無形民俗文化財	川浦諏訪神社の獅子舞	平成9年6月11日	B-8

庄城MAP
D-10

〈10月中旬〉

判官流佐々良獅子舞といい、その昔、越後から伝わってきたといわれ400年の伝統をもっています。

昔は相間、中尾の両地区で祀る諏訪神社の獅子舞といわれていましたが、今では水沼神社の獅子舞となっており、毎年10月の水沼神社の宵祭りのときに奉納されています。

〈4月第3日曜日〉

諏訪神社に奉納する舞楽で4月の春祭に奉納されています。舞歌の中に「キョウデウマレテイセソダチ」の歌があることから関西から信濃をへて、この地に伝えられたと考えられています。

諏訪神社は元和2(1616)年、信州上田市に生島足島神社から勧請されたと伝えられています。



〈4月3日、11月23日〉

里神楽といひ、笛、太鼓、小太鼓の音にあわせて舞う神話を題材とする黙劇です。演者は登場神を象徴する面をつけ、御幣・矛・剣・鍬・鈴を持ちます。大正6(1917)年群馬郡八郷村(現高崎市)の烏子稻荷神社の里神楽から伝授を受け、以来春秋二回の祭に奉納します。

0 1000m

イチヨウの樹高は34メートル、目通り6.8メートル、根元回り10メートルです。地際付近では北側にある杉を抱えています。県内で4番目の大イチヨウです。

ケヤキは社殿の奥にあります。樹高32メートル、目通り6.4メートル、根元回り8メートルで県内屈指の大ケヤキです。



神社境内の入口付近にあって、幹はやや北側に傾斜し、1.3メートルの所で3本に分かれています。樹種はオオモミジで、樹高は11メートル、目通り3.1メートル、根元廻り3.2メートルで県内でも屈指の大カエデです。



碑の四面に青面金剛像を百体浮き彫りにしている珍しいのです。
「寛政六年甲寅六月如意日」の紀年銘があります。四面それぞれに25体の像が刻まれており、数の多いことを吉とする風習から造られたものであろうと考えられます。長井にも一本ずつ刻んだ百庚申があります。

The map shows the location of Kurogawa Onsen (倉渕川浦温泉) and its surrounding area. Key features include:

- 倉渕川浦温泉 はまゆう山荘** (Kurogawa Onsen Hamayuu Sanjō): The main hot spring location, marked with a red flame icon.
- 長野原倉渕線** (Naganohara-Kurogawa Line): A railway line passing through the area.
- 鳥川溪谷公園** (Togakawa Gorge Park): A park located near the hot spring.
- 高芝学校跡** (Takashi School Site): A site marked with a green circle and the number 23.
- 幕府御用材 搬出御会所跡** (Shogun's Official Material Transport Site): A site marked with a green circle and the number 22.
- 鳥川上流砂防堰堤** (Togakawa Upper Sand Prevention Weir): A weir located near the hot spring.
- 0 1000m**: A scale bar indicating the distance.

An inset photograph shows the interior of the Kurogawa Onsen Hamayuu Sanjō, featuring a large, curved, yellowish-brown hot spring pool with a wooden ceiling and walls.



幕末開明の人、遣米使節の後、勘定奉行などの要職につき、横須賀製鉄所の設立を初め、日本の近代文化のために多くの業績を残しました。領地のある榑田に隠棲しましたが、「反逆の企て」があらわれとされ非業な最後を遂げました。市内倉瀬町榑田の東善寺境内に小栗上野介父子の墓があります。



江戸から権田村に隠棲した小栗上野介は、東善寺を仮住まいとし、観音山に田畑と用水路を開発し、邸宅の普請をすすめました。しかし、それも、東山道総督府から「陣屋厳重に構へ」と追討の口実となり、完成には至りませんでした。用水路は今も利用され、屋敷跡には礎石が残されています。

数十メートルの岸壁の下の洞窟を利用して、その中に十数体の観音石像を祀り、その前に観音堂を建立。御本尊の一寸八分の金の観音像は、高さ約三尺木像の胎内仏として安置されているとわれています。



この皆是別名「駒形城」ともいわれ、戦国時代後期の築城で、真田昌幸が北条勢の吾妻侵攻に備えて築かせたものであるといわれ、本丸は烏川を望む断崖の上にあり、狼煙台にも利用されていました。麓には浅間神社があり、戦国時代には浅間寺があって、修驗道大宝院がこの城の烽火師でした。

標高500m程度の低い山に群生する、太平洋型気候域のブナ林としては極めて貴重なものです。標高570m、指定面積18,842㎡、太いものは目通り1.4mのものがあります。



①三沢川砂防堰堤

三沢川砂防堰堤は、昭和10(1935)年9月の台風に伴う豪雨により荒廃した三沢川の最下流部に昭和13(1938)年に建設されました。
本堰堤・副堰堤ともに水通部を曲線状とし、周囲の景観とも調和しています。



②榑田栗毛お母衣明神

熊谷次郎直実の愛馬榑田栗毛の生地。一の谷の戦いで傷ついた榑田栗毛は、一寸八分の金の観音像と直実が戦いに用いた母衣を身につけ故郷に帰ったが、既に生家は絶えてありませんでした。悲しんで屋敷跡に落とした母衣を里人がその地に埋め「お母衣明神」としてまつられている。なお、金の観音像は岩窟観世音の胎内仏として納められているといま



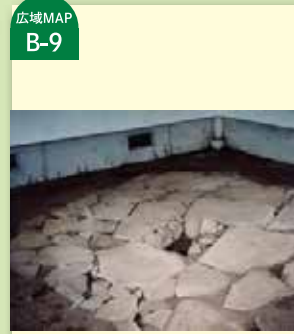
③熊久保の道祖神

「寛永二年乙丑十一月吉日」と刻まれた県下で最古の僧形の双体道祖神です。その立像は地蔵を感じさせる古い形式のものです。この道祖神は尾根を越えて亀沢に出る古道にあったといわれ、この地域では戦国時代からすでに信仰されていたものと考えられています。



③長井の道祖神

長井を通る街道は信州の旅人や草津入湯者で賑わった古い街道です。その街道筋にあった道祖神で、元禄5(1692)年の元禄ひな型と、おこそ頭巾を被ったものなど六体が集められています。おこそ頭巾を被った双体神は優雅で「旅は道連れ」風の微笑ましいものです。



④長井石器時代住居跡

昭和28(1953)年、開田作業中に縄文時代後期の住居跡が発見されました。この住居跡は敷石住居と呼ばれるもので、床面には板状の石が敷き詰められています。住居跡の中央に炉跡があり、そこから70センチメートル離れた西側には平石に囲まれた箱状の遺構がありました。遺物は、縄文時代後期の土器や磨製石斧・石棒などが出土しました。



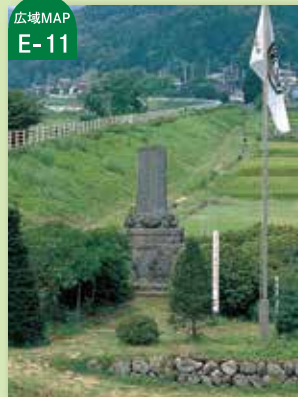
榑田五名石一鳴石

榑田五名石(剣磨石・動石・立石・夫婦石・鳴石)の一つです。大きな石の中が空洞の部分が多いため、軽く叩いても「コーン」と響くことから起こりました。榛名登山道の途中にあり、付近から縄文・弥生・土師遺跡なども発見され、祭祀遺跡との関連が考えられています。



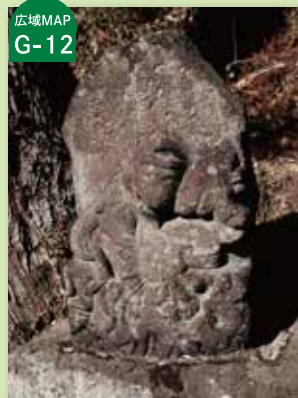
⑨戸春名神社の大杉

戸春名神社参道両側に二本のスキの巨樹があります。樹勢極めて良好で、ここで参道が急に狭まっています。樹齢は推定400年といわれているが神社の創始は確かではありません。



⑫小栗上野介忠順終焉の地

慶応4(1868)年間4月5日、上野介と家臣3人は捕縛され何の取り調べもなく、翌日水沼川原において斬首されました。上野介42歳でした。終焉の地には、「偉人小栗上野介罪なくして此所に斬らる」と刻まれた碑があり、昭和7(1932)年地元の有志等によって建てられました。



⑬落合の道祖神

風戸峠を越えて榛名神社へ通じる参詣路と草津・信州街道の旧道にあります。この道は天明6(1786)年奈佐勝「山吹日記」のコースにあたります。「宝暦十辰天極月吉日中原村中」と刻まれた道祖神は、浮世絵を思わせるような夫婦和合の姿を見せる変わった形のものです。



⑪僧戒定の供養塔

戒定(かいじょう)は寛延3(1750)年、永井家に生まれました。20歳で豊山に入り、のち大塚護国寺、さらに豊山に登り地蔵院に住み、享和3(1803)年には江戸中野の宝仙寺の第40代の住職になりました。著書には「二十唯識秘録二卷」をはじめ多くの名著があり、永井家の庭前に供養碑があります。



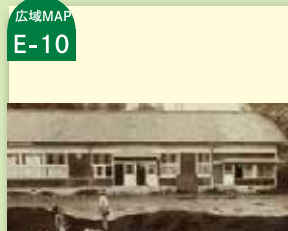
⑮猪毛の道祖神

男神・女神が別の石に刻まれた単体の珍しい道祖神です。戦国時代、元三沢の下家が三河の国からはるばる背負って来て守護神として祀ったという伝承があります。5月5日が祭日で、この道祖神は万病を治してくれるものとして近在の信仰が厚い。



⑭下諏訪神社の道祖神

数ある絵姿像の中で、大きさ、造像技術共に群を抜いています。優雅で気品をそなえた姿態は見る人を魅了します。また「天明八戊申十月吉日」の銘があり、天明3(1783)年の浅間山大噴火をはさんで数年の飢饉を克服し、将来への希望と自信を感じさせる雰囲気につつまれています。



⑩水沼弥生時代住居跡

弥生時代後期の集落遺跡の初期発見例として知られています。昭和19(1944)年から7回にわたり、群馬大学による発掘調査がおこなわれ、8軒の竪穴住居跡から弥生時代後期の土器(樽式土器)が多数出土しました。土器のほか、鉄鍬・砥石・紡錘車なども出土したことから、群馬県地域の弥生時代後期の文化を知る上で基準となる遺跡となりました。



⑩箕輪城主夫人藤鶴姫の墓

永禄9(1566)年、箕輪城落城の時、業政夫人藤鶴姫は家来と共に城を脱出しましたが、途中で敵に囲まれてしまいました。家来に防いでもらい、一人逃れることができました。しかし高野谷戸の辺で「オーイ」と呼ぶ家来の声を敵と思い自害してしまいました。家来はこの地に墓を造り、姫の霊を供養したといま



⑦榑田栗毛終焉の地

熊谷次郎直実の愛馬榑田栗毛は一ノ谷の戦いで傷つき、介抱されて生地の榑田に帰りましたが、すでに生家は絶えてありませんでした。榑田栗毛は主人の許に帰ろうとしましたが、宇土城谷戸(倉渕町三ノ倉)で遂に倒れてしまいました。里人はここに馬頭観音を建てて葬りました。生地にはお母衣明神があります。



⑦榛名山座主の森

榛名山座主、快尊・忠尊・快承の墓といわれる塚です。鎌倉末期と推定される板碑や五輪塔の一部が残されています。榛名山の支配権をめぐる争いが、当時の南朝と北朝の勢力に二分され、南朝方の快尊らは、北朝方の頼印と鳥川沿岸で争い滅亡たと伝えられています。